

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371001674		
法人名	株式会社フレンズホーム		
事業所名	フレンズハウス中島新町 ユニット1		
所在地	愛知県名古屋市中川区中島新町一丁目502番地		
自己評価作成日	令和2年9月25日	評価結果市町村受理日	令和3年1月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&Jigy_osvoCd=2371001674-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和2年10月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日を明るく楽しく、自宅で暮らしているように過ごしていただけるよう工夫している。居室内は、利用者様が自由に暮らせる空間であるため馴染みの物や家具を好きなように置いていただき、落ち着いた空間で過ごせるように配慮している。利用者様との信頼関係を築くことに気を配り打ち解けて生活する中で、残された能力を發揮できるように支援していきたいと職員皆が同じ考えで方向性を一つに持って努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

基本理念でもある「明るく、楽しく、元気よく」をモットーに考えながら、利用者が毎日の生活を前向きな気持ちで過ごすことができるように、ホーム内はアットホームな雰囲気がつくられており、利用者は毎日の生活を好みの場所で過ごすことができるような支援が行われている。現状の感染症問題あることで利用者の外出の機会は限られているが、利用者の中には行きつけの美容院を継続する等、入居前からの生活の延長になるような支援も行われている。ホーム独自の災害に関する新たな取り組みとして、地域の学区との連携を深めながら、非常災害時には、ホームに保管されている車椅子を貸し出す協力が行われており、地域貢献にもつながる取り組みが行われている。また、医療面に関する支援についても、協力医との柔軟な関係が作りながら、利用者の健康状態に合わせた支援が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念は目につきやすいところに掲示してある。ミーティングなどで共有し、実践に繋がるよう努力している	運営法人の基本理念をもとにホーム独自の理念がつくられており、ホーム内に理念の掲示が行われている。理念に掲げている「明るく、楽しく、元気よく」を支援の基本に、職員間で共有に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内の行事に参加したり、公園の草むしりに協力している。散歩に出掛けた際に近所の方と顔を合わせた際に挨拶を交わしている	ホームは地域の町内会に入り、回覧板等を通じて、地域の方との交流につなげている。現状、感染症問題があることで、地域の行事は中止になっているが、学区で行われている敬老会を通じた交流については継続している。	現状の感染症問題があることで、地域の方との交流が中断している状況でもある為、感染症問題が落ち着いた際には、地域の方との交流が再開されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	施設に見学に来られた方に、認知症の人の暮らしを見てもらい説明するなどし理解していただけるよう努めている。近隣の小学生が訪問される機会がありどんな暮らしをしているのか知ってもらえる機会にしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	事業所の現状や取り組みを報告し合い意見交換を行い、会議で出た意見等は運営に反映できるよう努めている	会議の際には、地域住民で役職者でもある法人代表者が出席しており、会議を通じて地域に関する情報交換の機会にもつながっている。また、運営法人の関連事業所からも職員が出席しており、定期的な情報交換にもつながっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	生活保護受給者を受け入れており、区の担当者とは定期的に情報交換を行い協力関係を築くよう取り組んでいる	ホームで生活保護の方の受け入れが行われていることもあり、市担当部署との定期的及び随時の情報交換等の機会がつくられている。また、運営法人の事務局や関連事業所を通じた地域包括支援センターとの情報交換も行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束について学ぶ機会を設け、身体拘束に当たる行為を理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。夜間以外は玄関の施錠も行っていない	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、利用者自身で出入りすることができることで、職員間で連携した対応が行われている。また、身体拘束に関する定期的な委員会や職員研修が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待が身体的な虐待だけでなく心理的な虐待なども含まれる事を理解し、虐待が見逃されることがないように注意を払い防止に努めている。また、虐待についての勉強会を行い知識の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	制度について理解できていないのが現状であるため、研修に参加するなどして制度を学ぶ機会を設けていきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時にご家族様やご本人に希望や不安に思っている事を伺い、施設で行える範囲のケア方法を説明し納得したうえで契約している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会に来られた際などに意見や要望は聞くように努めている。また、玄関に意見箱を設置している	利用者、家族からの要望等については、ホーム管理者の他にも運営法人の事務局による対応も行われており、柔軟な対応に取り組んでいる。また、ホーム便りについては、現状年2回となっているが、電話による随時の報告が行われている。	現状の感染症問題があることで、家族との面会にも制限が生じている状況でもあるため、ホーム便りの発行頻度を増やす等の取り組みにも期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	普段から意見があれば聞ける態勢は常に持っている。月に1度の職員会議でも意見や提案を聞く機会を設け反映させている	毎月のユニット会議や日常的な情報交換を行いながら、管理者が把握した職員からの意見等は運営法人の事務局にも報告され、ホームの運営への反映につなげている。また、運営推進会議を通じた、法人代表者との意見交換等も行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者と話をする機会はなかなか持てていないが、事務局長を通じて職場環境や条件を考慮するようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修を受ける機会があれば参加してもらい知識の向上ができるよう努めている。研修後には報告書を作成し皆が閲覧できるように保管し共有している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	姉妹法人との合同行事や他施設での勉強会に参加することによって交流する機会がある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前から情報収集を行い、ご本人にも要望や希望などを伺うようにし、少しでも不安を取り除けるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所前の面談や入所してからも面会時などに要望や不安に思っている事を伺うようにしている。可能な限りケアプランにも要望を取り入れ支援に繋げるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入所前の施設や病院などから情報収集を行いご家族様からも様子を伺っている。必要に応じ福祉用具なども検討し導入する際にはご家族に説明し同意を得ている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	一緒に食事をしたりテレビを観たり、お話をしたりして支え合える関係を築けるよう心掛けている。お互いが協力し合えるような暮らしが送れるように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時に日頃の生活の様子や近況報告を行い必要に応じ相談もしている。ご家族の要望も可能な限り取り入れ共に本人を支えていく関係を築くよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	今までの関係を大切に馴染みの人との関係も可能な限り途切れないよう希望があれば連絡して来てもらうなどしている	利用者の入居前からの関係継続は困難になっているが、利用者の中には、家族の協力を得ながら行きつけの美容院に出かける等、馴染みの関係継続にもつながっている。また、入居前からの生活習慣を継続している方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様同士が話し合っている時間を大事にし関係を見守っている。レクリエーションを通して会話のきっかけが作れるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後でも法人内の他施設に移った方には訪問した際に面会することもある。相談があれば出来る限り支援できるよう努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	言動や表情などに気を付け日々観察している。出来るだけ本人の思いに添うように努めているが、出来ない事もあるためそういった時は理解してもらえよう努めている	職員全員で利用者に関する意向等の把握が行われており、日常的な申し送り等も活用しながら、情報の共有につなげている。また、毎月のカンファレンスも実施しており、利用者の意向等を日常の支援につなげる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所前より情報収集を行い把握するよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日のバイタルチェックや申し送りで変わったことがあればその都度情報を共有するようにしている。その日その時の状態を把握し状況にあったケアが行えるよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎日の暮らしの中で問題点が出てきたらその都度話し合い、必要に応じて介護計画に取り入れている	介護計画については、3か月を基本に見直しが行われており、利用者の変化等に合わせた対応が行われている。また、介護計画の内容を記載したチェックシートを用意しており、日常的な把握と定期的なモニタリングにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の記録用紙に食事量や水分量、1日の様子などを記録している。何か特別なことがあればその都度話し合い、大事なことはミーティングで話し合い決めて統一している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者様やご家族様のニーズに対応し、新たな問題は重視し柔軟なサービスの在り方に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域のボランティアの方にお話し、フラダンスや落語の慰問に来ていただいている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月に2回協力医療機関の主治医の往診を受けている。家族の希望する病院があれば受診していただいている	協力医との定期的及び随時の連携が行われていることもあり、全員の方が協力医をかかりつけ医としている。受診については家族による対応としているが、ホームでも対応している。また、毎週の訪問看護が行われており、医療面での支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	月に2回協力医療機関の看護師の往診を受けている。生活の中での変化や傷の手当など、気付いたことは相談しアドバイスを頂いている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーを作成し情報を伝えている。定期的に面会に行き看護師に状況を聞くなどし、状況の把握に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化してきた場合は、施設での可能な支援を説明し家族の意向も踏まえ方針を検討している	身体状態が重い方もホームでの生活を継続できるように必要な支援が行われているが、現状、看取り支援は行われていない。利用者の段階に合わせた家族との話し合いを重ね、運営法人の関連の特養や有料老人ホームへの移行支援も行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時のマニュアルを作成しており職員は把握に努めている。定期的な訓練が行えていないため緊急時の対応に不安がある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	地震や火災、津波を想定した訓練は年に2回行っている。地域の方との合同の訓練は行えていないため協力体制は築けていない	年2回の避難訓練の際には、夜間を想定した訓練や通報装置の確認が行われている。水害が想定される地域でもあり、水害想定訓練も実施している。また、ホーム内の複数の場所に備蓄品を確保している他にも、新たに発電機の設置も行われている。	ホームでは、新たに消防署とも非常時には車椅子を貸し出す取り組みが行われている。ホームの継続した地域の方との協力関係づくりの取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者様の人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけを心掛けている	基本理念でもある「明るく、楽しく、元気よく」を職員の支援の基本に考えながら、職員への注意喚起にもつなげている。また、定期的に行われているミーティングの中でも、職員間で利用者への対応や言葉遣い等を確認する取り組みも行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の思いや希望を聞くようにし、表現の難しい方には選択肢を掲示するなど本人の希望に耳を傾け自己決定出来るように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者様一人一人のペースを大切にしている。一日の生活の流れを考慮し、希望があれば対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節に合った衣類や、洗濯した衣類のほころびやボタンが取れていないかなど注意している。外出する時は本人の気に入った服装や装飾品などを身に付けている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者様のADLが低下しているため食事作りは参加していないが片付けなどは行っている。職員も同じテーブルで食事をしており見守りをしながら会話も楽しんでいる	ユニット毎に職員がメニューを考え、利用者の好みや嗜好等の配慮も行われている。利用者も調理や片付け等のできることに参加する機会がつけられている。季節等に合わせた食事作りの他にも、食事の際には職員も一緒に食事を行っている。	現状の感染症問題があることで、利用者の楽しみが限られた範囲になっている。おやつ作りの取り組みを増やす等、利用者の楽しみが増える取り組みにも期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量や水分量はその人その人に合わせ調節している。必要に応じて食事形態を変更するなどして提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後に声掛け誘導し口腔ケアを行ってもらっている。出来ない方には必要に応じ介助している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄の記録を残し個々のパターンの把握に努め、必要に応じ声掛け誘導するようにし、可能な限りトイレでの排泄が出来るよう支援している	排泄チェック表等も活用しながら、利用者に合わせて記録を残し、職員間で情報の共有につなげている。トイレでの排泄を基本に、排泄状態の維持、改善に取り組んでいる。また、協力医や訪問看護とも連携した排泄に関する医療面での連携も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	定期的にバナナや果物、乳酸菌飲料などを食事の際に提供している。水分補給にも気を付け運動も行うようにしている。便秘が続くようであれば下剤を使用し調整している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	曜日や時間帯は決まってしまうが、順番はその人その人に合った順番にしており、利用者様のペースに合わせた入浴をしてもらっている	ホームでは、月曜日から土曜日の間で1日おきに入浴できるように支援が行われており、利用者の中には入浴日を指定している方等、意向に合わせた対応も行われている。また、浴室にリフトが設置されており、身体状態が重い方にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	その人その人の状態を見て必要に応じて休んでいただくよう声掛けしている。寝具は常に清潔に保ち空調の希望を聞き快適に休めるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人一人の薬情をファイリングし職員全員が目的や副作用について把握できるようにしている。薬の変更があった際は状態の変化に気を付けている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	余暇時間にレクリエーションを行ったり天候次第で散歩に出掛けて気分転換を図っている。手芸や工作の得意な方は作品を飾ったり、踊りなど体を動かすことが好きな方はボランティアさんの慰問を楽しみにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩や希望される方は買い物に出かけることもある。お花見やいちご狩りなど季節を楽しむ行事なども行っている	感染症問題があることで、利用者の外出が困難になっているが、ホーム近隣を散歩する等の支援が行われている。昨年については、年間を通じて様々な外出行事が行われており、喫茶や買い物をはじめ、関連事業所に出かける機会もつられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的に施設に預けてもらっているが、希望されれば本人が所持している方もいる。個人で管理している方は買い物の際に自分で支払いをすることもある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話を所持している方もおり、希望があれば自らが電話をかけられるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関や廊下、リビングに飾り物や季節のカレンダーなどがあり、入居者様に合わせた配置をしている。窓からの明かりで明るく清潔にも心掛けている	ホーム内は限られた広さであるが、採光が良いこともあり、利用者は日中の時間を明るい雰囲気でも過ごすことができる生活環境がつくられている。また、リビングや通路の壁面には、季節に合わせた飾り付けや利用者による作品の掲示が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間にソファを配置しており思い思いに過ごせるようにしている。席の配置も利用者様同士の関係を考慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室の家具は本人の使い慣れた物や好みの物を持参していただき居心地よく過ごせるようにしている	居室には、利用者や家族の意向等にも合わせて、入居前からの馴染みの家具類の持ち込みが行われてあり、利用者が過ごしやすい生活環境がつくられている。また、家族との写真や自身の作品を飾る等、好みに合わせた対応も行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室やトイレに貼り紙や目印をつけわかりやすくなるよう配慮している。利用者様の妨げにならないような物の配置を考えている		